

平成27年度（第9期事業年度）決算の概要について

平成28年9月14日

北海道公立大学法人 札幌医科大学

1 はじめに

本学は、平成19年4月に地方独立行政法人法に基づく公立大学法人となり、今回、第9期目の財務諸表について平成28年8月31日付けで、設置者である北海道知事の承認を受けました。

この財務諸表は、企業会計原則を基本にしつつ、公立大学法人特有の会計制度を加味した「地方独立行政法人会計基準」に基づき作成したものであり、本学の財政状況と運営状況を示すものであります。

(注) 財務諸表は、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書、利益の処分に関する書類、行政サービス実施コスト計算書及び附属明細書で構成しています。

2 財務諸表の概要について

(1) 財政状況

平成28年3月31日現在における本学の財政状況は、次のとおりです。

(資産)

資産の合計額は、約473億3千万円（対前期13億8千万円減）で、うち、土地、建物、工具器具備品等の固定資産が約382億7千万円、現金及び預金等の流動資産が約90億6千万円です。

(負債)

負債の合計額は、約113億8千万円（対前期7億7千万円減）で、うち、資産見返負債、長期借入金等の固定負債が約47億9千万円、未払金等の流動負債が約65億9千万円です。

(純資産)

純資産の合計額は、約359億5千万円（対前期6億2千万円減）で、うち、北海道からの出資金である資本金が約345億8千万円、利益剰余金が約39億7千万円です。

(2) 運営状況

平成27年度における本学の運営状況は、次のとおりです。

(費用)

経常費用は、約324億8千万円で、主なものとしては、教育研究費等が約23億4千万円、診療経費が約137億4千万円、人件費が約154億5千万円です。

診療経費は、医薬材料費が増加した一方で、従来派遣契約であった看護助手の雇用化による人件費への振り替え等により、対前期1千万円減となっています。

人件費は、上記の看護助手の振り替えによる人員増等により、対前期3億7千万円増となっています。

(収益)

経常収益は、約325億8千万円で、主なものとしては、北海道から交付された運営費交付金収益が約60億5千万円、授業料等収益が約8億3千万円、附属病院収益が約235億円です。

運営費交付金収益は、給与改定や光熱費等の増加見合いが算定された結果、対前期1億8千万円増、附属病院収益は、診療単価の増加により対前期2億5千万円増となっています。

(損益)

経常収益から経常費用を差し引いた経常利益は、約9千万円で、対前期6千万円減となっています。

(総利益)

当期総利益は、約9千万円で、対前期6千万円の減となっています。

(3) 利益処分

当期総利益については、経営努力の結果として中期計画に定めた使途に充てるための「教育・研究、社会貢献及び組織運営の改善目的積立金」に全額積み立てることとして、北海道知事の承認を受けています。

3 おわりに

第2期中期計画期間（平成25年度～30年度）においても、北海道から交付される運営費交付金は毎年計画的に縮減されることとなっており、今後も厳しい財務運営が予想されますが、教育・研究・診療活動の充実・発展のため、より一層の経営努力を行い、財務内容の改善・充実に努めて参りますので、今後ともご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。